

連結

売上高

1兆8,646 億円
(前年同期比 +0.3%)



営業損益

605 億円
(前年同期比 \triangle 51.4%)



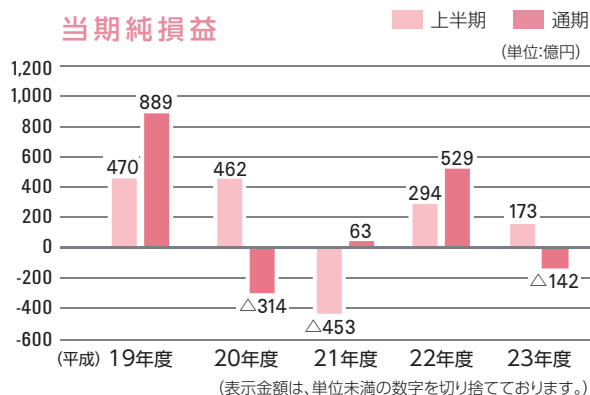
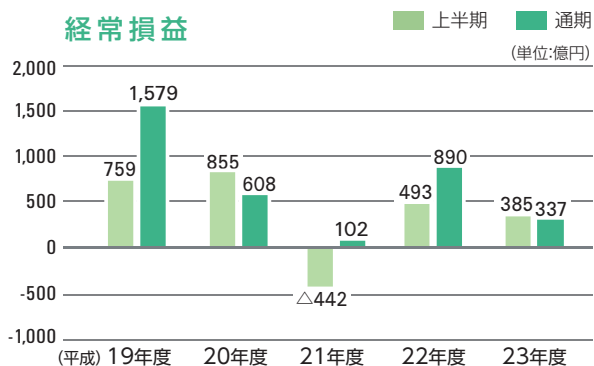
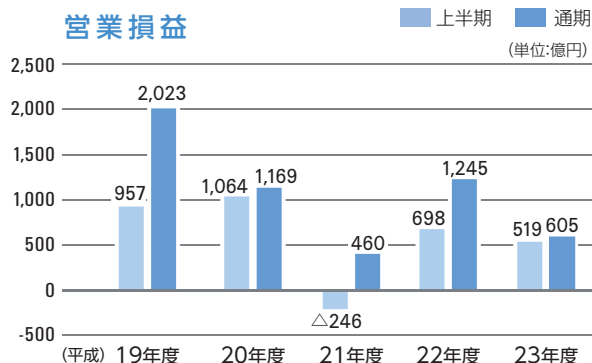
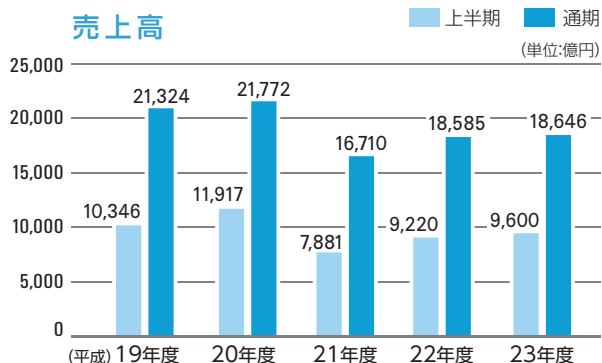
経常損益

337 億円
(前年同期比 \triangle 62.1%)



当期純損益

\triangle **142 億円**
(前年同期比 -)



当期の概況

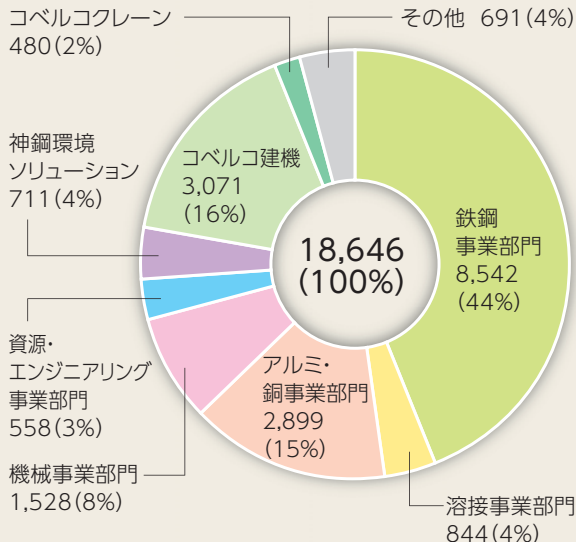
当期のわが国経済は、第1四半期に大幅な生産水準の低下をもたらした東日本大震災の影響が第2四半期には薄らぎ、回復に向かいましたが、第3四半期以降は、タイの洪水影響を含めた海外経済の減速や円高の定着が重石となり、ほぼ横ばいで推移しました。海外では、新興国を中心に緩やかな成長が持続したものの、欧州における金融不安や、中国における金融引き締めを背景に、成長ペースは鈍化しました。

このような経済環境のもと、当社グループにおいては、鋼材やアルミ圧延品、銅板条の販売数量が、震災やタイの洪水影響などにより、前期を下回りました。また、中国における油圧ショベルの販売台数も、春節明けの旺盛な需要を取り込んだものの、4月以降は金融引き締めの影響により減少し、前期を下回りました。

当期の連結業績は、売上高は前期並みの1兆8,646億円となりました。一方、鋼材やアルミ圧延品販売数量の減少や中国における油圧ショベルの販売台数の減少に加え、鉄鋼主原料価格の上昇などの影響により、営業利益は前期に比べ639億円減益の605億円、経常利益は前期に比べ553億円減益の337億円となりました。また、当期純損益は、繰延税金資産の取崩しを行なったことなどから、前期に比べ671億円減益の142億円の損失となりました。

単独業績につきましては、売上高は前期に比べ114億円減収の1兆786億円となり、営業損益は前期に比べ598億円減益の93億円の損失、経常損益は前期に比べ479億円減益の197億円の損失、当期純損益は前期に比べ605億円減益の302億円の損失となりました。

事業別売上高(平成23年度) (単位:億円)



(注) 上記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額681億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額1兆8,646億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。

事業別の概況 (枠内の数字は売上高を記載しています)



鉄鋼事業部門

8,542 億円
(前年同期比 +1.6%)



鋼材の販売数量は震災やタイの洪水影響、円高の影響により低迷しました。

- 鋼材の販売数量は震災やタイの洪水、円高の影響などにより前期比減少。
- 鋼材販売価格は主原料価格の高騰に対し製品価格への転嫁に努め前期比上昇。
- 鋳鍛鋼品の売上高は造船向けの販売価格下落により前期比減少。
- チタン製品の売上高は新興国のインフラ整備の需要が高まり、前期比上昇。

- 経常損益は主原料価格の上昇の影響などが大きく、前期比384億円減益の146億円の損失。



熱延コイル製品



溶接事業部門

844 億円

(前年同期比 +8.5%)



溶接材料、システムの需要はともに堅調に推移しました。

- 溶接材料の販売数量は、海外の需要が堅調に推移し前期比上昇。
- 溶接システムの売上高は、中国の建設機械向けの需要が旺盛で前期比上昇。
- 経常利益は前期15億円減益の31億円。



建機部品溶接ロボットシステム



アルミ・銅事業部門

2,899 億円

(前年同期比 △4.6%)



銅管は堅調に推移するもアルミ圧延品は震災やタイの洪水影響などにより低迷しました。

- アルミ圧延品の販売数量は震災やタイの洪水の影響などにより前期比減少。
- アルミ鋳造品の売上高は液晶・半導体製造装置関連の需要が低迷したものの自動車向けが堅調に推移し前期並。
- 銅管は堅調に推移するも、銅板条は需要が減少し、銅圧延品の販売数量は前期比減少。
- 経常利益は前期比87億円減益の60億円。

アルミ鍛造品
新幹線用ベアリングサポートアルミ鋳造品
航空機用ギアボックス

機械事業部門

1,528 億円

(前年同期比 △1.1%)



石油精製・石油化学業界向けの需要が堅調に推移しました。

- 石油精製・石油化学業界向け圧縮機は堅調に推移。
- 受注高は前期比3.0%増の1,450億円。当期末の受注残高は1,605億円。
- 経常利益は46億円減益の98億円。



蒸気駆動式エアコンプレッサ[SD1310]



資源・エンジニアリング 事業部門

558 億円

(前年同期比 Δ 13.1%)



大型案件を受注した前期に比べ
受注高が減少しました。

- 受注高は大型還元鉄プラントを受注した前期と比べ61.1%減の292億円。
- 当期末の受注残高は700億円。
- 経常利益は27億円減益の3億円。



MIDREXプラント(カタール)



神鋼環境 ソリューション

711 億円

(前年同期比 +2.3%)



大型の廃棄物処理関連事業を
受注しました。

- 受注高は廃棄物処理関連事業の大型案件の受注により、前期比21.5%増の788億円。当期末の受注残高は426億円。
- 経常利益は10億円増益の42億円。



バイオガス都市ガス化設備東灘処理場



コベルコ建機

3,071 億円

(前年同期比 Δ 1.9%)



主力市場である中国で需要が
低迷しました。

- 東南アジアや震災からの復旧需要が増加した国内の販売台数が前期を上回る。
- 中国では金融引き締めの影響もあり前期を下回る。
- 経常利益は34億円減益の228億円。



電動マルチ解体機[SK210D]



コベルコクレーン

480億円
(前年同期比 +17.2%)



海外、国内で需要が回復しました。

- 海外需要の増加に加え、震災からの復旧に関連し販売台数は前期比上昇。
- 経常損益は15億改善し、1億円の利益。



シティコンシャスクレーン
[PANTHER-X700]

etc

その他

691億円
(前年同期比 +5.5%)



不動産事業は分譲、賃貸事業が堅調に推移しました。

- 不動産事業において分譲事業、賃貸事業が堅調に推移。
- ターゲット材の需要が低迷。
- 経常利益は7億円増益の72億円。



ジークレフ千里中央
パークグレイス

リチウムイオン二次電池
評価設備

本年4月にホームページをリニューアルいたしました。

業績に関する詳しい説明は、当社ホームページでご覧いただけます。当社ホームページには、「株主・投資家情報」のコーナーを設けて、決算短信、IR説明会資料などを掲載しているほか、当社グループのさまざまな事業もご紹介しています。是非、一度ご覧ください。

当社ホームページアドレス <http://www.kobelco.co.jp>

